

ConfShare: 学術会議開催情報共有のための Web サービス

ConfShare: A Web-based User Interface for Sharing Academic Conference Information

高田哲司 金井秀明 西村拓一*

Summary. We propose a web-based academic conference information sharing system, that is named "ConfShare". Although there are some web services for sharing academic conference information, they are not familiar with researchers. We guess that the reason is a poor user interface because such systems provide users with a keyword search and separated list by research areas.

We develop a novel user interface that users can browse and retrieve conference information interactively. A conference has some typical attribute information such as submission dates and location and so on. ConfShare enables users to browse these information and use them for an interactive filtering of conference information. Using ConfShare, whether a user has some keywords for finding conferences or not, a user can find and get an academic conference information that she/he may have interest.

1 はじめに

本論文では、学術会議開催情報共有のための Web サービス "ConfShare" について述べる。学術会議情報は、主に Mailing List と Web page により流布されているが、これらの手法による流布が研究者にとって望ましい状況であるとは言いがたい。したがって本研究では、学術会議開催情報の探索と収集を支援しうる新たなユーザインタフェースを備えた、新しい Conference Calendar の実現を目指す。

2 学術会議情報の流布に関する現状

学術会議開催情報の流布する各種の方法にはいくつかの問題があると考えられる。本章では、主たる方法である Mailing List と Conference Web page を含む、下記の 5 つの方法についてその問題点を述べる。

Mailing List: Closed なコミュニティによる情報交換の仕組みであるため、配布先ならびにその情報源が限定される。またそれ以前に、適切な Mailing List の探索と加入に手間がかかるとともに、加入したとしても必要な時に必要な情報を得にくいという問題もある。また不要な大量のメールに圧倒される可能性もある。

Conference Web page: 誰でもアクセス可能であり、必要十分な情報が提供する方法だが、問題はその URL を知らない限り、この情報源に到達できないことである。また Conference Web page の一部は、その URL が一定ではなく、問題をさらに複雑にしている。

Web search engine: Conference Web page

Copyright is held by the author(s).

* Tetsuji Takada, 産業技術総合研究所, Hideaki Kanai, 北陸先端科学技術大学院大学, Takuichi Nishimura, 産業技術総合研究所

の URL を取得するために Google 等の Web 検索エンジンを使用するが、これにも 2 つの問題点がある。1 つは会議名称の一部分を keyword として検索を行っても期待する会議情報の収集が困難なことがあることであり、もう 1 つは、検索エンジンの indexing の遅延のため、最新または次回開催される会議情報の取得が困難なことが少なくない点である。

Conference Calendar: 学術組織が複数の会議開催情報を集約して提供している例がある [1]。しかしそれらは、その組織が関与する学術開催会議情報だけに集約範囲が限定されており、情報源の多様性に問題が残る。

Web services: 同様の目的を持った Web サービスがいくつか存在する [2, 3]。しかしこれらのサービスは、分野別カテゴリー分類とキーワード検索でしか会議情報の検索ができず、研究者の多様な要望に対して限定的にしか応えられない。

既存の Web サービスが行っているように、学術会議開催情報を一元的に集約して提供するという方向性は、Mailing List や Web search engine の代替手段として有効であると考えられる。しかしその問題は、集約されている情報の提供手段が限定されており、また情報の一覧性も低いといわざるを得ない。よって新たな User Interface を実現することによりその改善を試みた。

3 ConfShare

ConfShare ではこれらの問題点を改善すべく、学術会議開催情報を抽出しうるキー情報を 5 種類に多様化した。それは開催日、論文投稿締切日、開催地（開催都市名/国名）、会議名の省略名称とキーワードである。図 1 は、その画面表示例である。

画面は大きく右側の表示領域と左側のフィルタ領域に分類できる。右側の表示領域は左上に開催地を

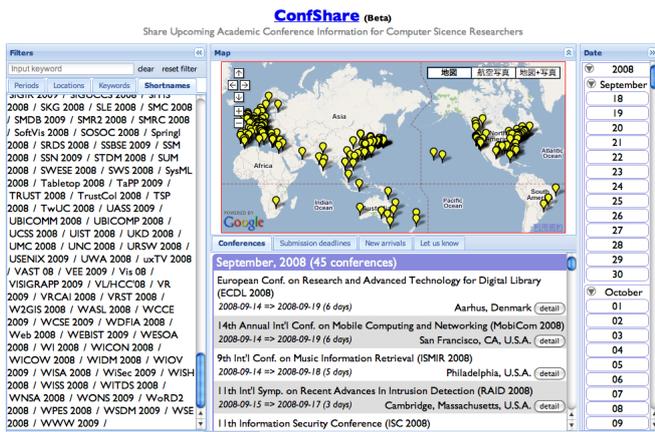


図 1. ConfShare の画面表示例

俯瞰可能にする地図表示があり、左下には会議開催情報と論文投稿締切情報をリスト化して提示する。右側には日付情報が提示され、興味のある日付を選択すると、その日付にかかわる会議開催情報と論文投稿締切情報の取得が可能である。

フィルタ領域画面では、年月、開催地、会議名称を単語分解したキーワード群そして会議省略名称がそれぞれリスト化して提示される。これらはすべて会議情報の抽出に使用でき、個々の情報を選択することで、その情報を属性として持つ会議情報の抽出が可能である。また表示領域内の地図上にあるマーカーも会議情報の抽出が可能である。

このように ConfShare は、単に学術会議情報を抽出するための検索キーを多様化しただけではなく、そのキー情報を可能な限り明示することに注力した。この結果、キーワード検索のようにヒントのないまま手探りで会議情報を検索するのではなく、提示されている検索キーを認識し、その中から選択を行うことで、ユーザが望む会議情報の抽出を可能にしている。つまり会議情報探索のために明確なキーワードを持っていないユーザでも、ConfShare を通じて学術会議開催情報の探索は可能である。また閲覧性を重視した UI の提供により、これまでユーザが知らなかった学術会議や、なんらかの関連がある他の学術会議を知る機会も提供しようとする。

図 2 は、ConfShare における会議情報詳細表示画面である。この画面は、ConfShare の学術会議開催情報または論文投稿締切情報のリスト内で詳細表示ボタンを押下することで表示される画面である。図にある通り、中央に開催地を示す地図があり、その上部には会議開催情報が、下部には論文投稿締切日に関する情報と、Conference Web page の更新状況が提示される。このように ConfShare では、会議情報のうち重要と考えられる情報を端的に提示し、かつ統一された表示形式で提示する。よって会議に関する詳細な情報を必要とする場面でなければ、Web

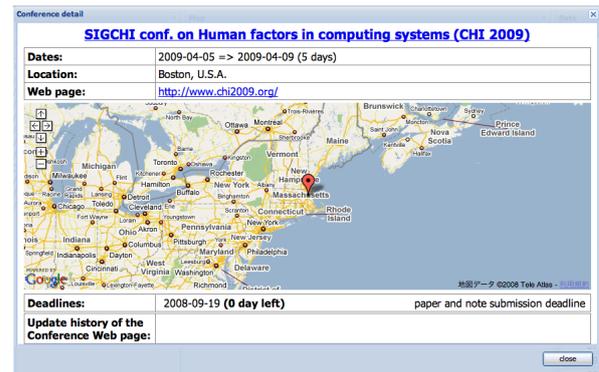


図 2. ConfShare の会議情報詳細表示画面

page の体裁の違いにより生じる情報探索の手間を軽減する効果も期待できる。つまり ConfShare で興味のある会議情報を閲覧すれば、論文投稿締切日情報が Conference Web page のどこにあるかを探索する手間が省けるということである。

なお本 Web サービスは iPhone および iPod touch 向けの Web ページも提供している。その User Interface は Web ブラウザ向けの UI とは大きく異なるが、それらの端末でも学術会議開催情報の閲覧が容易にできるよう配慮した UI となっている。よってユーザは、時間がある限り、さまざまな場所で学術会議開催情報ならびに論文投稿締切日情報の閲覧が可能である。

4 おわりに

本論文では、学術会議開催情報の共有を可能にすることで、研究者の会議情報検索と収集にまつわる負担軽減を目指した Web サービス ConfShare について述べた。様々な方法で学術会議の開催情報は流布されているが、そのそれぞれには問題が残されていることを明確にした。これらの問題に対する一つの改善策として、いくつかの Web サービスが提案されているが、我々がそれらの問題点として注目したのは、その User Interface の不十分さにある。そこで我々は同様の目的で情報共有を可能にする Web サービスを実現し、その上に明確な検索キーワードを持たないユーザでも学術会議開催情報の探索と情報収集を可能にする新たな User Interface を実現した。今後はシステムの実運用を継続しながらさらなるユーザの要望に応えるべく機能追加を実施していく予定である。

参考文献

- [1] ACM: Events and Conferences, <http://campus.acm.org/calendar/>.
- [2] WikiCFP: A Place to Organize and Share Call For Papers, <http://www.wikicfp.com/>.
- [3] Eventseer.net, <http://eventseer.net/>.